



菊間 夏葵 (きくま なつき) みなみ野中 2年生

作品名: 仲間の大切さ

図 書: ルフィの仲間力

私は今ダンスに熱中している。小学校の頃から友達と一緒に家や外で折りにふれ練習をしてきた。中学校に入り、絶対にあこがれのダンス部に入り仲間と一緒にダンスをしてみたいという欲求にかられ入部したが、廃部に近い状態だった。そこで、仲間と署名を集め、ダンス部の復活運動を試みた。この事は、今私が手にしている「ルフィの仲間力」の作者が勧めた内容であり、一年前の自分たちの行動がこの作者によって認められたと実感し、嬉しかった。私は、この作者の考えを自分なりにとらえ、その後の自分たちの行動を振り返ってみた。

まず、部活動が再開したものの、世間ではダンスをしている若者のイメージがあまり良くないようで、なかなか前に進めなかった。自分の夢を叶える為には自ら動かなければならない。この本の作者はこのような窮地に陥ったとき、どうしたらよいかということ、具体例を出して紹介している。それは漫画や映画で爆発的に有名になった「ワンピース」だった。主人公のルフィがかつて海に投げ出された時、自分の左腕と引き替えに助けてくれたシャンクスにお礼を言うために九人の仲間と力を合わせて危険な冒険へと飛び出していくという場面と自分たちの現実とは内容的に差はあると思うけれど、なぜか私はこの場面が当時の自分たちと重ねてみえた。あのとき、自分たちは話し合いを繰り返し、まず自分たちがする活動は「あいさつ」と「笑顔」に絞り実践していこうと決めた。そして努力した。そのことを意識することで徐々に部活としての機能が定着し、雰囲気がとても明るくなった。先生方を始め、自分たちの活動場所を通る人たちには必ずあいさつをする。今では意識しなくても自然に出来るのが不思議だ。

現在では、活動の場が増え、学校行事や地域のお祭りへの参加だけでなく大会にも参加できるようになった。

その一方で、練習内容についてのトラブルも増えてきた。そんな時は、彼の示す「本当の仲間になりたいならば、(ダンス) 目的を大切にして、仲間とのコミュニケ

ーションを大切にし、会話やその場にいることが仲間作りの基本だ。」

の一字一句を読み返し、自分をはげますようにしている。もちろん、仲間にも呼びかけて。

さて、このような活動の成果を発表するため、八月二十三日に大江戸ダンスの大会に臨んだ。他のチームとのレベルの差を感じたが、緊張していた時仲間との声かけが何よりも落ち着いた。

「弱点を自覚しながら長所を伸ばすことにかける。」

を意識し、笑顔の舞台発表だった。そして、「八王子市立みなみ野中学校ダンス部一金賞」えっ！金賞？！私たちは手を取りあい、今までの努力の成果を互いに讃えあった。

これから、私は高校生になり、新しい友だちと出会う。今までは小学校からの仲間が多くあまり人との付き合い方を意識しなくても学校生活を送れたが、そうはいかなくなるだろう。新しく仲間を作るにはどうしたら良いのか、不安でもある。けれども私の手元にはどのように仲間を作ったら良いのかという道すじを示してくれる本がある。本当の仲間とは何か、を作者は細かく教えてくれるのだ。情けない話だと思うが、今の若者はどうすれば良いのか分からない人が多いのだと思う。さらに、今までこんなふうに教えてくれた本があったらどうか？今私はこの時期にこの本に出会え、親しい友人のように私の未来を支えてくれると信じる。

また、本文中に

「心からの思いや絶望からの言葉、危機的な状況で頼ってきた仲間にたいしては絶対に応じる。」

もあった。とても印象に残る言葉だ。簡単なようで難しいと思うが、助けを求められたら助けてあげたいし、そうなる前に、自分が気づいたら声かけしてみるつもりだ。とはいえこういう私も仲間や周囲のひとからの声かけに支えられている。それを心の隅において、将来の自分を築いていこうと思う。それを教えてくれたのは「ルフィの仲間力」だ。